

(資料)

## REFRANERO ESPANOL (23)

### スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz\*

新井藍子\*\*

#### 990. **Mujer (La) aliñada, antes que se viste hace la cama.**

まめまめしい女は、着変える前に ベッドを整える

- 働きものの女は、おめかしをしたり、着飾る前に家を整える。(バロス)
- バロス諺集には、類義で “La mujer aseada, la cama hecha y la cabeza tocada. きれい好きな女は、ベッドも整え、髪も整える” (清潔でこまめな女は、家事もよくするし、身なりもいつもきちんとしている—バロス) がある、また、それとは反対に、“La mujer cuanto más se mira a la cara, tanto más destruye la casa. 女は鏡を見れば見るほど、家をだめにする”, “La mujer algarera, nunca hace larga tela. おしゃべりな女は、少ししか仕事をしない” (La que mucho habla poco trabaja. のことで、おしゃべりしているうちに、エネルギーが口からでていってしまうから—スバルビ諺集) などの諺もある。
- “la mujer algarera-la mujer charlatana y ruidosa おしゃべりで騒々しい女”, “hacer larga tela- 仕事をたくさんすることの比喩”

---

\* Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.

\*\* Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

**991. Mujer (La) artera, el marido por delantera.**

利口な女は、夫の後ろに隠れて

- 自分の思いど通りに事をすすめるために夫をいい訳につかう。
- コレアス（コレアス諺集）によると、妻にとって都合の悪いことをしたくない時、例えば、人に何かをあげたくないとか、貸したくないような場合、夫の許可がでないのとか、それをすると夫が怒るからとか何とかかんとか言って夫を口実に逃れる、結婚している妻にとっては、夫をこのようにもちだすのは慎重な断わり方といえるだろう。スバルビも同じように、抜け目のない妻は、自分にとって都合のよくない事をしないうですませるために夫を口実に使うと説明している。
- バロス諺集には、類義で “La mujer aguda, con el marido se escuda. 鋭敏な妻は、夫を口実にする” がある。

**992. La mujer blanca encubre ciento y una falta.**

色の白いは 七難隠す

- 色白の女性は、たとえほかに多少の難があっても、それを覆い隠して美しく見えるということ。
- 日本の諺のように “七難”， “十難”（ともいう）どころか、スペインのそれは “百一難” と誇張している。それほど色白はたくさんの難点を隠してくれて美人の形容になっている。どこの国でも美人の基準が共通しているのがおもしろい。
- 類義の日本の諺で、美人を表現しているのには、“米の飯と女は白いほどよい”， “髪<sup>かみ</sup>の長い女は七難隠す”， “卵に目鼻” などがある、反対の諺には “色の黒きは味よし”， “炭団<sup>たどん</sup>に目鼻” などがあり、色の黒いのは不美人の形容となっている。

**993. Mujer (La) brava es la llave de su casa.**

勇ましい女は 家の鍵となる

- こういう女は、家をしっかりと守ってくれるし、繁盛させてくれる。
- しかし、あまり勇まし過ぎると、“A la mujer bigotuda, de lejos se la saluda. 口ひげのある女には、遠く離れて挨拶”， “Mujer barbuda, de lejos se la saluda, con dos piedras, que no con una. ひげのある女には、遠く離れて挨拶、それも手にはひ

とつではなく、ふたつの石を持って”などと、敬遠されてしまう。ここではひげのある女は、勇ましい、しっかり者、しかし少々荒っぽく、おっかない女の比喩となっている。

**994. Mujer (La) buena, de la casa vacía la hace llena.**

良妻は、空っぽの家を いっぱいにしてくれる

- かいがいしく働き、無駄使いしない妻は、夫をよく助けて家を繁盛させてくれるということ。
- スバルビィは、働きものの妻というものは、ひとりで少しずつ質素でみすぼらしい家を居心地のよい家に変えていくものであるという。スバルビィ諺集には、良妻について “La mujer buena, corona es del marido. 良妻は、夫の冠である” (夫にとって妻が与える名誉ほどの名誉はないから—スバルビィ) が、また、コレアス諺集には、 “La mujer que es buena, plata es que mucho suena. 良妻のいる家では、銀貨の音がよく響く”, “La mujer que mucho hila, poco mira. よく紡ぐ女は、ほとんど鏡を見ない (気をそらさない)” などが、それぞれ収載されている。その反対の悪妻については、コレアス諺集では、 “La mujer que no sabe cocinar y la gata que no sabe cazar, nada val. 料理が下手な女と、ネズミ捕りの下手なネコは何の価値もない”, “La mujer que mucho mira, poco hila. 鏡ばかり見ている女は、ほとんど紡がない”, “La mujer que poco hila, siempre trae mala camisa. ほとんど紡がない女は、いつもだらしのない衣ころもを着ている” などが、また、バロス諺集では、 “La mujer pulida, la casa sucia y la puerta barrida. 念入りに化粧した女、家の中はきたないが、玄関はきれい” (筆者の諺辞典、諺 1001 を参照して下さい) などがそれぞれ収載されている。これらの諺から、スペインだけでなく、以前の日本でも考えられていた良妻、悪妻の概念がわかって面白い。日本でも、家計のやりくりが上手で財産を増やしてくれる、なおかつ夫を大事にしてくれる年上の女房を称えて “姉女房しんだいは身代の薬”, “姉女房しんだい倉が建つ”, “姉女房は子ほど可愛がる” などがある。

**995. Mujer (La) casada y honrada, la pierna quebrada y en casa, y la doncella, pierna y media.**

結婚している律儀な女は、足折って、家の中、  
また、まっとうな娘も、同じ

- 結婚している女も、結婚前の娘も、外を出歩いてばかりいて家事をおろそかにするのはよくない、自由がありすぎるのは困りものだと戒めている。
- 異表現の“La doncella honrada, la pierna quebrada y en casa. まっとうな娘は、足悪くして、家にいる”は、すでに見てきた。(筆者の諺辞典、諺 432 を参照)
- 例題：ドン・キホーテ第二部 5 章，ドン・キホーテと三度目の遍歴に出かける，島の太守になれるかもしれないと，うきうきしているサンチョに妻のテレサが，おまえさんは，どこにでも出かけなさい，娘とわしは，この村を一步も離れない，“…：la mujer honrada, la pierna quebrada, y en casa; y la doncella honesta, el hacer algo es su fiesta. 堅気な女は足がよわく，うちにいるもんだし，たしなみのいい娘は，働くのをたのしみにするだわよ。”と殊勝なことを言う。(続編一，永田寛定訳第二部 34 章，49 章でも，サンチョがこの諺を使っている。(筆者の諺 432 を参照のこと)
- バロス諺集には，類義の諺“La mujer en casa y el hombre en la plaza. 女は家に，男は外に”(それぞれが自分の仕事に精をだすのがいいと言っている—バロス)。“La mujer maridada, no viva descuidada. 結婚している女は，気を配って生きよ”(夫，子供，家庭のことなどに関する諸々の仕事をしなければならぬし，また，特に己の評判を汚さないように気をつけなければならぬから—バロス)などがある，また，スバルビィ諺集には“La mujer compuesta, a su marido quita de puerta ajena, o quita al marido de otra puerta. おめかしした女は，よそのドアの亭主を取ってしまう”(亭主が外で女をつくらないために，妻はいつもきちんと化粧し，きれいにしていなければならぬ—スバルビィ)がある。一連のこれらのことわざは，家事を完全にこなす，貞淑であり，夫が浮気しないようにいつも身なりをきちんとしていなければならぬなど，昔の典型的な良妻賢母像を謳っている。

**996. Mujer (La), con el marido, en el monte tiene abrigo.**

夫のいる妻は、山中でも避難場所がある

- 夫に守られている妻は、どこでも受け入れられ、敬意を払われる。
- 同義で異表現のことわざが、スバルビィ諺集に次のように収載されている；“La mujer casada, en el monte es albergada. 結婚している女は、山中でも守られている”，“La mujer con su marido, en el campo encuentra abrigo. 夫のいる妻は、野原でも避難場所がある”など。
- 現在は、世界的に結婚しない男女が増えているので、独身のままでも世間から奇異な目で見られることもなくなったが、以前はそうではなかったことが、これらの諺からもうかがい知れるだろう。特にひとり身でいる女性にとって世間の偏見の目は厳しかった。言わんとしているニュアンスは少々異なるが上記のことわざと反対のものもある；“Mujer casada, nunca asegurada. 結婚している女でも、安心できない”（ひとり女をしっかりとひきとめておくのは難しい—バロス諺集）

**997. Mujer (La), cuando se irrita, muda de sexo.**

女は、腹を立てると 性が変わる

- 通常はやさしく、女らしくても、我を忘れて怒れば、男のように荒っぽくなるということ。
- 普段、見せない顔を見せてしまったら、後で悔やんでも遅い、人からがっかりされたり、恨み、反感を抱かれたりすると、怒りは身を滅ぼしかねない、故に、“怒りは敵と思え”，“怒りは愚かな者の胸に宿る”などと言って、こちらでは怒りを戒めていることわざがある。
- （男の目から見た）女の性癖についてユーモアをこめてこう言っている諺もある；“Las mujeres sin maestro saben llorar, mentir y bailar. 女は師匠に教えられなくとも、泣き方、嘘のつき方、踊り方を知っている”（バロス諺集），“La mujer, cuando piensa sola, mal piensa. 女はひとりで考えている時は、よからぬことを考えている”（同諺集），“La mujer en la iglesia, santa; ángel en la calle; buho en la ventana; en el campo, cabra, y en su casa, urraca. 女というものは、教会では聖女、街では天使、窓際ではフクロウ、野原ではヤギ、家ではカササギ”（ちなみに、

大きく目を見開いて外を眺めている様子がフクロウに似ている、又、buhó には、比喩的に persona huraña - 人間嫌いな、引っ込み思案な人を指す意味もある、あちこちと飛び跳ねている様子はヤギだし、カササギはお喋りの比喩(筆者) など。

### 998. Mujer enferma, mujer eterna.

#### 一病息災

- 虚弱なタイプの人や、或いは、常にどこかに軽い故障、痛み等があって、体調がすぐれないことを口にだして嘆いているような人は、病気一つしないと自慢している人比べて、かえって長生きするものであるということ。
- スペインの諺の直訳は“病気の女は、永遠の女”である、パロス諺集によると、女だけではなく男についても次ぎのように同様の諺がある；“Hombre enfermo, hombre eterno. 病気の男は、永遠の男”
- 日本のことわざの“一病息災”と同義のスペインの諺である、こちらも、少しの持病程度なら無病の人よりも健康に気をつけるのでかえって長生きするという意。病気にみかからず元気であるという意の“無病息災”という諺もある。見出しの類義には“病上手の死下手”がある。

### 999. Mujer hermosa, viña e higueral, muy malos son de guardar.

#### 美しい女、ブドウ園、イチジクの木、守るのが難しい

- これら三つのものは、人の食欲をひきつけるとても甘いものである。どんな小さな被害であれ、避けるためには熱心に管理しなければならない。(スバルビィ)
- スバルビィ、パロス諺集にはそれぞれ“mujer hermosa- 美しい女”について次ぎのような一連の諺がある；“La mujer hermosa, al desdén se toca. 美しい女は、無造作に髪をとかず”(美しい女は、念入りに身繕いしなくても自然のままで美しい—スバルビィ、さりげなくしているほうがより美しい—パロス)、“La mujer hermosa, o loca, o presuntuosa. 美しい女は、常軌を逸しているか、うぬぼれているかのどちらかだ”(自分の美しさをよく知っている女は、確かに思い上がったり、まっとうな女がしないような途方もない行為をするようになることもある—スバルビィ)、“La mujer hermosa quita el nombre a su marido. 美しい妻は、夫から名を奪う”(妻が美しく評判になると、誰もが彼女を知っていて、誰々の夫人とは呼ばれなくなる。

反対に夫のほうが名前で呼ばれるよりは、誰々の夫と言われるようになる—スバルビィ),  
 “La mujer hermosa, un poco roma, mas no tanto que parezca mona. 美しい女は、ちょっと鼻が低い、猿に見えるほどではないが” (本当に少し鼻ぺちゃだととても愛嬌がある—バロス), “La mujer, hermosa, y la galga, golosa. 女は、美しく、食いしん坊は、甘いもの好き” (であるにちがいない—バロス)

- 日本のことわざで美人を謳っているのは; “佳人薄命” (現在では“美人薄命”) のほうがよく知られている, 岩波ことわざ辞典によると, 源は中国の代表的美人で, とても病弱だった, “美女は悪女の仇” (美人は醜女からしっとされる), “美人に年なし” (いくつになっても若く見える), “美人は言わねどかくれなし” (美人はだれが言わなくても自然に世間の知るところとなる) など。

### 1000. Mujer (La) loca, por la vista compra la toca.

軽薄な女は 見てくれで 帽子を買う

- その物自体が役に立つかどうかより, それに付いているたいして重要でない飾りものの方に注意を払う人をたとえていう, また, 事柄の表面だけに重点を置いて判断するような人を批難している。(バロス)
- スバルビィ諺集には, 異表現で “La mujer loca, o por el cabo, o por los cabos, o por la lista, o por la vista compra la toca. 軽薄な女は, 帽子に付いているリボンで/見てくれで帽子を買う” が収載されている。スバルビィによると, 人とか物の良さを判断する時に, それらの本質を見極めないで, 単に外見が魅力的か, 素敵であるかないかで決めるような人を咎めている。
- “toca- 女性が被るベール, (修道女の) ずきん, 帽子”
- 人とか物の本質が大切なのであって, 体裁とか見てくれではないということ。そうはいっても, 人が物を選ぶ時は, 単に実用的かどうかよりはなるだけ体裁のよいもの, 美しいものを欲する傾向がある, 特に人の場合は, 立派で感じのいい魅力的な外見は一目で良い印象を他者に与えてしまう, 故に, 日本には“人は見かけによらぬもの”, とか“人は見目より只心”のようなことわざがある, このような表面的な外見に惑わされないようにとおしえているのである。

### 1001. Mujer (La) pulida, la casa sucia y la puerta barrida.

念入りに化粧した女 家の中はきたないが 玄関はきれい

- 自分の身なりに気を配りすぎる女は、家庭をおろそかにする傾向がある。己の身のまわりなど、外見ばかり気にして飾り立てる女をたとえていう。(パロス)
- 見栄っ張りの体裁屋は、他人の目につくところは、きれいにするがそうでない所には少しも気を配らないということだろう、本人に関していえば、中身を磨くよりも外見を飾り、家の中を掃除するより玄関だけはきれいにするといったように。
- 類義で、怠慢な女を諷ったものが次ぎのようにコレアス諺集に見られる；“La mujer que mucho mira, poco hila. 鏡ばかり見ている女は、ほとんど紡がない”（仕事に気を配るよりおしゃればかりを気にする女をたとえている—スバルビィ），“La mujer que no sabe cocinar y la gata que no sabe cazar, nada val. 料理が下手な女とネズミ捕りの下手なネコは、何の価値もない”（ネズミを捕らぬネコに女をたとえた辛辣な諺—筆者），“La mujer que poco hila, siempre trae mala camisa. ほとんど紡がない女は、いつもだらしない衣ころもを着ている”（筆者の諺辞典諺994を参照），“La mujer que poco vela, tarde hace lengua tela. 夜なべをほとんどせぬ女は、長い布を織るのに時間がかかる”など。スペインの諺には、女の家庭での仕事の代表格が“hilar- 紡ぐ, cocinar- 料理をする, barrer- 掃除をする”などになっている。また、たとえにでてくる動物の中でもネズミとネコの取り合わせは、スペインでも日本でも際立って多いと言えるだろう。

### 1002. Mujer (La) rogada y la olla reposada.

女は望まれて ナベ料理は蒸らして

- 女は熱心に懇願されると、それだけ高い敬意を男から払ってもらえる、また、ナベ料理は火から下ろした後、完全に蒸らしてから食べるととても美味しくなる。(パロス)
- 慎み深い女はいかに称賛されるかを言い表わしたことわざ。(スバルビィ)
- 女が男を好きでも、自分のほうからは積極的に男に告げずにじっと男から所望されるのを待っている、そういう控えめな女性を、熱い火から下ろされて美味しく食べられるのを待っているナベ料理にたとえたことわざである。恋愛でも料理でも、何にでも最良の時期があるということだろう。両者に関しては、かっかかっかと一番熱い最中

ではよくない、少し冷ましてからということだろうか。“rogada”と“reposada”には、韻を踏ませている。

### 1003. Mujer, viento, tiempo y fortuna, presto se muda.

女と風と時と運は すぐ変わる

- これら四つのは全く当てにならないということ。女の男に対する心は常にふらふらしているし、風向きはいったいによく変わる、時は常にとどまることなく移り変わっていくし、また、人の運も水車や風車のようにくるくると回っている。
- コレアス諺集には、異表現で“Mujer, viento y ventura, presto se muda. 女と風と運は、すぐ変わる”が、類義で“Mujer, vino y caballo, mercadería de engaño. 女と酒と馬は、いんちきな商品”（買った後で騙されたと気付くことが多い—筆者）が記載され、またバロス諺集では“Mujer, viento y caballo, mercadería de engaño. 女と風と馬は、いんちきな商品”が見られる。
- 日本のことわざでは、変わりやすいものとして“女心と冬の風”，“男心と秋の空”，“女心と秋の空”などがある、また、どう変わっていくか測り知れないという意の“水の流れと人の末”，“水の流れと身の行方”などがある。スペインでも日本でも変わりやすさの筆頭が女心とはおかしい気がするが、“岩波、ことわざ辞典”によると、日本のことわざの方は、古くは、“男心”形が“女心”より圧倒的に優位だったようである。

### 1004. Mujer (La) y el fuego y los mares son tres males.

女と火事と海は 三つの怖いものである

- 人の力が及ばない天災は誰でも怖い、火事、地震、台風、ハリケーン、津波、そして変わりやすい風向きに影響される海もとても怖い。それらの怖いものの筆頭に女を持ってきたのはいかにもスペイン人らしい。筆者もスペイン生活が長かったので知っているが、確かにスペイン人女性は強い、あまり男性に媚びたりせずしっかりと自己主張するし、結婚にも恬淡としていて、好きな男性に巡り会うのは天の定めと考えている女性が多いような気がした。
- さて、日本では、この世の中で怖いのは次ぎの四つ“地震雷火事親父”である。しかし、現代では“岩波、ことわざ辞典”が指摘しているように、どれくらいの子供たち

が親父を怖がっているだろうか疑問である。日本では父親の権威はなくなってしまったようであるが、スペインではまだまだ女性の権威は存在しているから上記のことわざは生きていると思う。

### 1005. Mujer (La) y el vidrio siempre están en peligro.

女とガラスは いつも危険にさらされている

- 脆く、壊れやすいということ。
- スバルビィによると、女というものは、細心の注意深さで貞潔を守り、いつでも慎み深くなければならぬ。ガラスのように壊れやすい女をうたう詩句をスバルビィが引用しているが、それと同じものがドン・キホーテ第一部、33章にも次ぎのように引用されている、

“Es de vidrio la mujer ;	女はガラスじゃ。さりながら、
pero no se ha de probar	こわれるものかこわれない
si se puede o no quebrar,	ものかと試しちゃなりません、
porque todo podría ser. ”	ひょんなことにもなるうでな。

(正編三、永田寛定訳)

この章、“とてつもない物好きの小説が読まれる章”では美しい妻を持った夫が、妻の貞潔を試そうとして、結局は妻も親友も己の名誉もなにもかも全て失うことになり破滅するという話である、女はガラスと同じなのだから女を試そうとするなんてとんでもないということになる。

- コレアス諺集には、類義で“La mujer y la espada nunca ha de ser probada; o tentada. 女と剣は決して試すべきではない”，“La mujer y la espada puede ser mostrada, mas no confiada. 女と剣は見せることはできるかもしれぬが、誰かに託すことはできぬ”などがある。

### 1006. Mujeres (Las) y el vino hacen a los hombres renegar.

女と酒は 男の信仰を 捨てさせる

- 酒と女はそれほど強い影響力を男に与えるということ。
- 類義では、“La mujer y el vino sacan al hombre de tino. 酒と女は、男から理性を奪う”が、コレアス、バロス諺集に収載されている。人間にとって、理性と信仰は非

常に大切なものである、これら二つのものをなくせばどうなるか、Fernando de Rojas の La Celestina の中で恋に盲目となったカリストがわれわれに教えてくれる。その第1幕、初めて美しいメリベアに出会い夢中になってしまった御主人、カリストに対し従者が女に溺れて墮落した男どもの例をずらずらと列挙したそのうちの一つ、  
 “<Las mujeres y el vino hacen los hombres renegar>; do dice <Esta es la mujer, antigua malicia que a Adán echó de los deleites de paraíso. …女と酒は男の信仰をなくさせるとか、アダムをして楽園の快樂から追い出したその昔のわる者は女であるとか、…” (魔女セレスティナ、大島正訳)

- こちらの“とかく浮世は色と酒”には、上記のような悲愴感は漂ってはいない、それどころか、日々の生活を営む中で女との色事と飲酒をおおいに楽しんでいる様子が感じられる。また、男にとって酒は憂さを捨てさせ、辛い事、心配事などを忘れさせてくれるありがたいものであると、酒を讃えたことわざ“酒は愁いを掃う玉箒”，“酒は天の美禄”，“酒は百薬の長”などがある。やはり、スペインのことわざのように酒というものは何かを捨てさせ、忘れさせるという効能があるのであろうか。時には、良薬にもなるし毒薬にもなるということだろうか。そして、男にとっての女にも酒と同じくらい強い効き目があるということだろう。

### 1007. Mujer (La) y la cereza, por su mal se afeitan.

女とサクランボは 己の危険も知らずに おめかしする

- 女は男の気をひくためにおしゃれをし、化粧するが、それにより自身を危険にさらす場合が多々ある、同様に、リンゴ、サクランボなど、諸々の果物は色づくことによりそれが熟したことを人に教えるのである。(パロス)サクランボは、人に食べられるために色づき、女はおめかしをすることにより危険を招く。(コレアス)
- 異表現の“La mujer y la camuesa, por su mal se afeitan. 女とリンゴは、己の危険も知らずにおめかしをする”がスバルビィ諺集に収載されている。スバルビィによると、1) たいてい女というものは、自分の欠点を隠すために化粧し (por su mal-自分の欠点のために)、リンゴは色づきが良くなり、一番美味しく見える時にはもう中身がくさりかけている。2) 色づき始めた果物が、人の食欲をそそって手に取られるのと同じように、女も化粧し、おめかしをすることにより男の食欲をそそり、純潔を失う危険にさらされる (por su mal- 自分の危険のために)。

- 女と化粧は切っても切れない関係だが、日本のことわざでは、それをあからさまに“女は化粧物”（女は化粧で年令をかくせる），“女見るなら忙しい時に見よ”（忙しい時に見ると、化粧しないありのままの姿が見られる）などと言う、これらは、男に化粧した女には騙されるなという一種の警告であろう。スペインのことわざは、それとは対照的にほんのりと色気がつきはじめた初々しい若い女を、色づきはじめ、ふくいくといい香りを放つ果物にたとえてとても詩的である。そしてそういう若い女に悪い虫がつかないようにあまりおめかししないようにと警告している。

**1008. Mujer (La) y la cabra es mala siendo flaca y magra.**

女とヤギは 瘦せて肉がついていないのは よくない

- そういう女は魅力がないし、瘦せているヤギの乳の出はよくない。
- しかし、瘦せて小さい女が良いということわざの方が多く；“La mujer y la galga, en la manga. 女も猟犬も、袖口に入るほど”（小さければ小さいほどよい、女はより繊細である—バロス），“La mujer y la sardina, cuanto más pequeña, más fina. 女も鯛も、小さければ小さいほど上質である”（小さい女は一般的に鋭敏である—バロス）。“La mujer y la sardina, pequeña. 女も鯛もとても小さい”（だから良い—筆者）
- これら一連のことわざは、小柄な女をヤギ、猟犬、鯛にそれぞれたとえて良いの悪いのといっているが、小さい方が、繊細で鋭敏であると賛美しているのが圧倒的に多い。日本のことわざでも鯛をたとえに用いているのが多いが、魚の中では、最も下等で小さな魚の代表であり、つまらぬもの、粗末なものの比喻として使われている。スペインのリゾート海岸では捕れたての鯛を網で焼いて供しているが、あつあつの鯛にレモンをかけて食べるととても美味しい。

**1009. Mujer (La) y la gallina, por andar se pierden aína.**

女もメンドリも 出歩くと すぐになくなる

- 家の中にじっとしていない女にふりかかる危険を警告している。（スバルビィ）
- 異表現がコレアス諺集に次のように収載されている；“La mujer y la gallina, por andar anda perdida; es perdida. 女もメンドリも歩いているうちになくなる”，“La mujer y la gallina, por andar se pierde aína. 女もメンドリも、外に出ると

すぐにいなくなる”など、また類義では、バロス諺集に、“La mujer y la gallina, hasta la casa de la vecina. 女もメンドリも隣の家まで”(行ってもいい、もし家の外に出たいならば一筆者、女にはあまり自由を与えてはならぬ、メンドリのように家からあまり遠くに離れるのはよくない—バロス)、“La mujer y la gallina, a casa con el día. 女もメンドリも日中に家に戻りなさい”(夜になると危険がいっぱい—筆者)、また、コレアス諺集には、“La mujer y la oveja, con tiempo a la cabañuela. 女も羊も、余裕をもって家へ”(連れ戻しなさい、夜の外は危険でいっぱいだから—コレアス)などのことわざが見られる。庭の外に出るとすぐに迷子になってしまうメンドリに女をたとえたこれら一連のことわざは、ユーモアがあって面白いが、現在でも女性にとって世の中は危険でいっぱいであるから決して古くさいことわざではない。日本人の女性が外国で災難に出会うケースも多い昨今であるが、活発な女性は世界中を駆け巡りじっとしてはいない。

- 同じメンドリをたとえに用いた他のことわざが次ぎのようにある；“La mujer y la gallina, para vendimias. 女もメンドリもブドウの取り入れまで”(メンドリは羽が生え変わり、女は野良仕事で日焼けして肌の色が変わる—バロス)、“La mujer y la gallina siempre pica. 女もメンドリもいつもつっぱんでいる”(女はメンドリのようによくつまみぐいをする—筆者)など。
- スペインでは、上記のように gallina- メンドリは、すぐにいなくなり、いつもつっぱんでいる食いしん坊である、などの比喩の他にも、臆病な男をたとえて“Es un gallina- 彼は腰抜けだ”という言い方がある。“岩波、ことわざ辞典”によると、日本でもにわとりは物忘れの代名詞で、人間の言うことを聞かない<馬鹿>と見なされているようで、見出しのことわざに表現も意味もよく類似している“鶏は三步歩くと忘れる”がある(すぐに物忘れすることのたとえ、よく忘れる人をからかったり、あなどって言う言葉—岩波、ことわざ辞典)。スペインのことわざは女に警鐘を鳴らしてはいるが、こちらのように決してからかったり、あなどったりしてはいないと思う。
- 例題：ドン・キホーテ第二部 49 章、島の夜回りをしていて男装の娘を捕らえたサンチョは、娘に例のごとくいくつかのことわざを巧みに混ぜてお説教をたれる、“…； que la doncella honrada, la pierna quebrada, y en casa; y la mujer y la gallina, por andar se pierden aína; … まっとうな娘御は足弱のもの、家におけるもの。女と鶏は、出歩くとかならず身をほろぼす。”(続編三、高橋正武訳)

**1010. Mujer (La) y la pera, la que calla es buena.**

女もナシも 黙っているのが 上等

- 女はお喋りではないのが、ナシは切る時に音がしないのがいいと言う。
- コバルビアスの宝典にも収載されているところを見ると古いことわざである，“La muger y la pera, la que calla es buena.” コバルビアスによると、他の果物と同様にナシにもいろいろの種類がある。コレアスは、切る時に音を立てない種類が良いと言い、スバルビィは、食べる時に音がしないナシの種類が良い、また、音を立てるのは、よく熟していない旬のものではないので固くて不味いと言う。スペインのナシはいわゆる西洋ナシで甘く、香りがよく、柔らかいので確かに切る時も、食べていても音はしないが、対照的に日本のナシはサクサクと音がするのが上等で味も美味なのはなかろうか。
- 女を果物にたとえたのが、先にもでてきたが、こういうのもある；“La mujer y la naranja no se ha de apretar mucho porque amarga. 女もオレンジも、あまりきつく搾ってはならぬ、苦くなるから” 日本には“立てば芍薬座れば牡丹”など花にたとえることわざはあるが、果物にたとえたことわざは、筆者の知る限りでは見当たらない。さきほどから見てきているが、スペインでは、女のたとえかたが多種多様であることがわかる。それに比べて日本のことわざは、“女”という項目を調べてもたとえがほんのわずかである。こういうところからも、スペイン人の発想は奇抜で想像力も豊かであるということが言えると思う。

**1011. Mujer (La) y la seda, de noche a la candela.**

女も絹も、夜にろうそくの下で 見よ

- 本当よりきれいに見えるから。(パロス) 女は実際よりふっくらと美人に見える。(コレアス)
- 異表現の“La mujer y la tela, a la candela. 女も布も、ろうそくの下で見よ”，“La mujer y la tela, a la candela; o a la vela. 同訳”（売りに出す時には—コレアス），“La mujer y la tela no se ha de escoger a la candela. 女も布も、ろうそくの下では選ぶな”などが、コレアス諺集に収載されている。
- コバルビアス（宝典）によると，“candela-vela de sebo, o cera 獣脂ろうそく，(集合

的) ろうそくの意” 同宝典には, “candela” を用いた諺 “Media vida es la candela, pan y vino la otra media. いのちの半分はろうそくで, 後の半分はパンとワインで” (ここでのろうそくはわれわれを外側から暖める火で, ワインは内側から暖めてくれる。寒さはいのちと相反するもので, ちょうどよい暖かさがわれわれの生命を維持してくれるのである—コバルピアス) が収載されている。

- 日本でも, 夜の薄暗がり, 遠くから見た時, そして笠をかぶっていて顔が陰になっている時などは, 人の顔がはっきり見えないので実物よりよく見えるの意の “夜目遠目笠の内” という諺がある。ここでは女とは言っていないが, “岩波, ことわざ辞典” によると, カルタの絵札には女を描いたものがほとんどだそうである。また, “笠” を “傘” とみる見方もあるようである。

### 1012. Mula (la) y la mujer, por halago hacen el mandado.

雌ラバも女も, 喜ばせると いうこときく

- 頑固なラバのような女もお仕置きでは, いうこときかないから。(パロス) われわれが欲することを両者にしてもらいたい時には, 力づくではなく, 愛情と説得が必要である。(スバルピィ)
- ラバと女を謳った諺が, その他にもいくつかある; “La mula como la viuda, gorda y andariega. ラバも寡婦も, 太っていて出歩き好き”, “Mula que hace hin y mujer que parla latín, nunca hicieron buen fin. ヒィヒィーンと鳴くラバもラテン語を喋る女も, よい結果にはならぬ” (このような音を発するラバも, 女に相応しくない仕事に携わっているのもよくないと言っている—スバルピィ), “La mula y la mujer, a palos se han de vencer. 女もラバも, こらしめて言うことをきかせなければならぬ” (見出しの諺と反対をいう—筆者), “La mula y la mujer con pan se quier. ラバも女も, パンでいうこときく” (財産のこと—コレアス, quier-quiere) など, 女をラバ扱いしているのが辛辣な一連の諺である。
- “mula-ラバ” には, “testarudo-頑固者, 強情っぱり, necio-間抜け, 愚か者” の意味がある。

**1013. Muy caro compra el que recibe, y más caro vende el que da a quien lo agradece.**

もらう者は とても高く買うことになる、

あげる者は 感謝されるなら とても高く売ることになる

- 前半は、“ただより高い物はない”，“物を貰うはただより高い”と同じで，人からただで物もらうと，無理な依頼を断わることが出来ない羽目になったり，返礼のための出費もかさんで，結局はとても高いものになってしまうということ。後半は，前半の裏返しで，あげた相手が感謝し恩を感じてくれるなら，こちらの無理な頼みも聞いてもらえるし，結局は大きな利益になって返ってくるということ。類義の日本のことわざには，“海老で鯛を釣る”，“損して得取れ”などがある。

**1014. Muy presto llega a la puerta el que trae mala nueva.**

悪いニュースは すぐ届く

- よい噂はなかなか伝わらないが，悪い噂話しはすぐに人から人へと伝わるものである，また，悪い事柄は，世間にはっと広がる。
- 類義の諺には“El bien suena, y el mal vuela. よい噂は響くだけだが，わるい噂は舞い上がる”（筆者の諺辞典，諺 140 を参照）がある。
- 悪い噂の伝わりかたの早さを謳って日本のことわざは“ささやき千里”という，それぐらい早い，また，早いだけではなく，話しをより面白くするために人から人へ伝わるうちに尾ひれがついて“人のうわさは倍になる”のである。